

韓国環境部プレスリリース 2020年3月9日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 326-339 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1349120&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月7日～8日に江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）華川邑（ファチョンウプ）および上西面（サンソミョン）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）漣川邑（ヨンチョンウプ）百鶴面（ペッカシミョン）、旺澄面（ワンジンミョン）および中面（チュンミョン）で発見された野生いのしし死体14個体からASFウイルスが検出されたと3月9日明らかにした。

国立環境科学院は3月9日死体14個体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョングン）137件、漣川郡（ヨンチョングン）110件、坡州市（パジュシ）70件、鉄原郡（チョルウォングン）22件、合計339件の野生いのししASF陽性事例となった。

野生いのししASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は「今回確認された死体は全て広域フェンス中の既存感染地域で発見され、この地域では感染死体がさらに出てくる可能性があるため、捜索を強化して死体を速かに除去する」と明らかにした。

以上